

電気通信大学留学報告書

F.M.さん

所属 (留学開始時)	情報理工学研究科・情報学専攻 学年：修士 2年
留学先大学	シカゴ大学 (国名：アメリカ合衆国)
所属学部・学科等	コンピュータサイエンス学部
留学期間	2024年 7月 1日 ~ 2024年 8月 23日

1. 留学の動機、この大学を選んだ理由など

まず、この修士2年の時期に留学を決めた理由は、学生最後に留学の経験をしたかったからです。もともと自分の語学力には自信がなく、語学力を向上したいという理由から学部1年の時に語学留学に行きました。ところが、コロナの影響で留学は早々に中止で強制帰国となり、無念な思いでいました。そこで、就職活動が落ち着いた修士2年のタイミングで、シカゴ大学のサマープログラムの話を研究室の先生から紹介されたことをきっかけに、シカゴ大学の留学に行くことを決めました。また、将来エンジニアとして活躍するために、プロトタイピングの経験を積み、実践することで自信をつけるということも目的の一つでした。そこで、シカゴ大学の中でも自分の興味がある研究をしている研究室である AxLab に応募しました。AxLab ではソフトウェアからハードウェアまで統合したユーザーインターフェースの研究に取り組んでおり、プロトタイピングスキルをつけるためにとても良い経験ができると考えました。

2. 留学前の英語等外国語学習の方法、語学試験の受験状況など

留学を決める前から語学力を向上させたいと考えていたので、定期的にオンライン英会話に通っていました。また、映画や TED を英語字幕で見たり、Podcast を聞いたりしていました。他には、英語学習系のコンテンツを発信している YouTube や Instagram のアカウントをフォローして、エンタメ感覚で学習していました。留学を決めたあとの直前の学習としては、ChatGPT の音声機能を使って会話練習をしたり、YouTube でまとめられている日常会話でよく使えるフレーズを使って瞬間英作文をするなどしていました。

3. 渡航について

ビザについて	ビザの種類：J1 ビザ	申請先：アメリカ大使館 (東京)
	申請時期、申請方法、提出書類、アドバイス等： プログラムの合格通知が来た4月頃から準備を始めました。最初はシカゴ大学に DS-2019 という書類を提出します。そこでは自分の金銭的なことに関して証明する必要があり、銀行の残高証明書や助成金・奨学金の支給証明書が必要なので早めに入手することをおすすめします。2週間から1か月ほどで DS-2019 が発行されるので、大使館面接のために DS-160 や SEVIS という書類を作成します。大使館面接に日程を予約したあと、面接をし、約10日後に J1 ビザが発行されました。 大使館面接は私の場合日本語ですごく簡単なものでした。(英語での面接の方が多いと思うので、渡航目的や期間などは回答できるように準備しておくとうよいと思います。)	
	申請から取得までに要した日数：	18日程度

出国年月日	2024年 7月 1日
往路経路（空路）	ユナイテッド航空 東京（羽田空港）⇒シカゴ（オヘア空港）
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有（具体的に： ） <input checked="" type="checkbox"/> 無（具体的に： ）
現地でのオリエンテーション実施状況・内容	二日目にオリエンテーションが実施され、寮のことやセキュリティに関する説明を受けました。焚火を囲んで交流するイベントとバスでルネッサンスフェアに行くイベントが開催されました。

#### 4. 費用について

差支えない範囲でおおよその費用を教えてください。

※内容は自由に変更可

内 容	金 額	内 容	金 額
航空券代／往復	270000 円	教科書代	0 円
保険代	200000 円	食費	40000 円／月
ビザ代	35000 円	交通費	10000 円／月
プログラム料	60000 円	その他	70000 円

#### 5. 授業等について

学期の期間	月 日～	月 日
	月 日～	月 日
	月 日～	月 日
	月 日～	月 日

#### 研究・研修内容など

シカゴ大学の AxLab (Actuated Experience Lab) という研究室で行われている研究プロジェクトの実装やアイデア出しのお手伝いをするような形で研究に参加しました。実際には、3D プリンターによる筐体設計やモーターなどのハードウェアからロボットの制御や GUI などのソフトウェアの実装に取り組みました。

他には、週に2回グループミーティングがあり、一つ目は研究室の学生の進捗報告のためのミーティングで、二つ目は論文読みや動画編集の講座などを行うミーティングです。毎週現地の学生と同じように参加しました。進捗報告のミーティングでは、2週間に1度、自分の進捗を報告する必要があり、スライドを作って5分程度進捗をみんなの前で発表しました。この際に、改善したいことを議論したり、アイデアをいただいたりしました。

研究室全員が参加するグループミーティングに加えて、研究室の教授を含めたプロジェクトのメンバーが参加するプロジェクトミーティングも週に1回ありました。ここでは、実装を行う作業スペースで、プロジェクターの各メンバーが進捗や困っていることなどを報告し、議論をしました。他にも、論文投稿に向けて執筆活動にも取り組んだため、どのように研究のアイデアを説明するか整理したり、アプリケーションのアイデア出しなども行いました。

#### 研究や研修で困ったこと、その解決方法など

研究そのものに関しては日本で取り組んできたスタイルと大きく変わることはなかったことと、実装やプロトタイプは自分の得意分野であったため、あまり困ることはありませんでした。一方で研究における英語でのコミュニケーションにはやや苦労しました。

まず一つ目はリスニングです。自分の考えを伝えることは、絵をかいたりジェスチャーを使ったりすることで、英語が拙くても比較的容易にできます。ですが、相手の言っていることを理解することは、①専門的な用語を知っている必要がある点や②なまりがあったり速い英語であるという理由から、私にはやや苦労しました。①に関しては、知らない単語や表現がでてきたときは、恥ずかしがらずに聞き直すということをしました。口頭で説明しても私に伝わっていないようであれば、相手もどうかして伝えようとしてくれるため、私も諦めずに理解する努力をしました。②に関しては、できるだけたくさんコミュニケーションをとり、その人の話し方に慣れるようにすることで、時間がたてば自然と聞き取れるようになっていきました。

二つ目はスピーキングです。先ほど自分の考えを伝えることは比較的容易だと言いましたが、やはりコミュニケーションにおいて聞く相手のストレスを減らすためには、できるだけ英語の会話ベースで考えを伝える必要があると思います。留学最初の方は言いたいことをうまく英語にできず、イラストやジェスチャーを使ってなんとかコミュニケーションをとっていました。それを改善するために私がやっていたことは、自分が言えなかったことを覚えておき、どのような英語表現を使えば伝えることができたのかメモして、次の日にその表現を使って身に着けるようにしていました。また、留学中も英語フレーズについて YouTube などを使って勉強したり、ネイティブが使っている表現を覚えて同じように使ってみるようになりました。そうすると、徐々に実践的な英会話の表現が蓄積されていき、言いたいことが言いやすくなっていったり、言葉だけで相手が理解しているのを実感しました。

#### 留学先の学生との交流について（現地でどのように交流を深めましたか？）

同じプロジェクトの学生とは、研究をする過程でアイデアをブレインストーミングしたり、実装の方法を相談することで交流を深めました。研究室の学生とは、週2回行われるグループミーティングで交流を深めたり、食事やシカゴの観光に連れて行ってもらったりして交流を深めました。

#### 大学の施設・サービスについて（インターネット環境、図書館、スポーツ施設など）

大学の寮と研究室にはインターネット環境が整っていました。また、寮の地下にはジムがあって、健康目的で毎日利用していました。他には、私は利用しませんが、大きな体育館やグラウンドもあったそうです。一緒に参加していた他の留学生は、現地のサッカーコミュニティに一時的に入って、シカゴ大のグラウンドを使っていたそうです。



## 大学周辺の治安や雰囲気

緑に囲まれていて、気温もちょうど良く、過ごすには快適でした。キャンパス内の治安は基本的には問題ないですが、銃声が聞こえることもあったそうです。シカゴの南のエリアは治安が悪いとされていたので、行かないようにしていました。独立記念日には 109 人撃たれて 10 人が死亡するというニュースもあったので、独立記念日の夜にはあまり外に出ない方が安全かもしれません。シカゴの CTA という電車のレッドラインは治安が悪いといわれていて、知らずにいった他の留学生から聞いた話では、大麻などを販売する人が車内で歩いているみたいなので、乗らない方がよいです。ダウンタウンには観光地がたくさんあり、昼は治安が良く、夜もそこまで悪くはなかったです。

## その他、生活等に関して参考となる事項

留学にいった 7 月～8 月は日本の夏よりも気温が低いため、思っているより涼しいイメージです。半袖だけ持っていくと夜中は特に寒いので、上着やパーカーがあると便利です。寮から 8 分ほど歩いたところにスーパーがあったので、週に 1 回そこで食材を買っていました。他にはキャンパス内にフードトラックが数台あるので、そこでも昼食を買うことができました。ダウンタウンに H マートというアジアスーパーがあり、日本・韓国・中国の食材や調味料があるのでアジアフードに恋しくなったときはぜひ行くと良いと思います。私はそこで、インスタント味噌汁や出汁、うどん、カレールー、納豆、ぽん酢などを購入しました。寮近くのスーパーにも電子レンジであたためられる白米や醤油程度であれば手にいれることができます。

## 8. 留学を終えての感想、自分の変化、反省点など

留学を終えて、語学力やプロトタイピング力はもちろん海外で 1 人で 2 ヶ月間生活することができたということが、今後の人生においても大きな経験になったと感じました。

語学力に関しては、以前参加した語学留学では期間が短かったことに加えて、積極的に英語を話せずあまり成長出来なかったことが反省点としてあったので、今回は 2 ヶ月間で絶対に成長してやろうという意気込みがありました。その意識もあって、最初はなかなか英語が聞き取れなかったり喋れなかったりしましたが、日々改善することを心がけたり、研究室の学生と積極的にコミュニケーションをとるようにし、以前よりも英語を話すことに対する自信がついたと思います。また、今回の留学はチームでの研究プロジェクトに参加したため、コミュニケーションが頻繁に行われ、とても良い環境でした。

そして、今回最も自分のやりがいを実感できたことが研究です。今回の留学は 2 ヶ月という短い期間ということもあって、既に取り組みされていた研究テーマのプロジェクトに参加し、実装の部分をメインに取り組むという形であったため、研究において私が最も好きなプロセスである実装にほとんどの時間をかけることができました。そのため、これまで自分が学部や研究室で少し触れてきた程度のプロトタイピングの知識に対して、ハードウェアとソフトウェアのどちらも統合した実践の経験を得ることができました。研究室の教授やプロジェクトメンバーからも自分の実装力に関して感謝され、自分の技術力に対して大きな自信をつけることができました。

平日は朝から夜まで研究に没頭しましたが、休日はシカゴのさまざまなエンターテイメントを楽しみ

ました。初日にもらうシカゴ大学の ID を使うと、美術館や博物館などが無料や割引になるため、とてもありがたかったです。私の興味のある領域はエンターテインメントで使われる技術研究であるため、シカゴのエンターテインメントを体感することはとても良い経験となりました。

今回の留学は初めての海外長期滞在であり、初めての一人での海外渡航であり、初めての一人暮らしでした。留学前は不安がありましたが、実際行ってみると、思っていた以上に自分がどうにかできてしまうことに正直驚きました。毎日、新しい発見や成長や挑戦があり、とてもワクワクする日々でした。自分の知らない初めての環境になったとしても、どうにかしようとする経験は、留学だけでなく、これからのさまざまな場面で生きることだと感じました。



## 9. 留学を考えている学生へのメッセージ

留学前は、日本よりも治安の悪いアメリカに女子一人で行って、不慣れな英語で生活できるのか不安がありました。ですが、実際に行ってみると、慣れない英語でも思っていたよりコミュニケーションはなんとかなるし、現地には研究室の教授や学生、同じプログラムに参加している留学生がいて、困ったことは相談できる環境があります。今留学を考えている皆様もきっと、留学に行った後には、なんとかなるといふ経験から、自ら行動して挑戦することに対する自信を得ることができると思います。ぜひ、一歩踏み出してみてください。